

# 懸賞SA 解答 2025年 8月号

**問1 正解②** 国籍離脱の自由は、居住・移転の自由や職業選択の自由、財産権などとともに、経済的自由に分類される憲法上の権利である。

**問2 正解①** 犯罪の予防のための警告は、被害者となり得る者その他関係者に対してもすることができる。この警告は、犯罪行為を行おうとする者に対して行わないよう求めるのが一般的であるが、被害を受けそうな者に対してその場を立ち去るよう指導することなども、その一態様であることに注意を要する。

**問3 正解④** 心神耗弱者とは、責任能力がない場合（責任無能力者）ではなく、一般人よりもそれが劣る場合（限定責任能力者）をいう。心神耗弱者が違法行為を行った場合は、犯罪が成立して処罰されるが、責任の度合いが弱いため、必ず刑を減軽しなければならないこととなっている（刑法39条2項）。

**問4 正解⑤** 逮捕状の緊急執行は、通常逮捕に係る逮捕状を提示できない場合の緊急措置であるから、通常逮捕の一態様とされている。緊急性を要件とし、逮捕後に逮捕状を提示することになる点で緊急逮捕と共通するが、逮捕時に既に逮捕状が発付されている点において、緊急逮捕とは大きく異なっている。

**問5 正解③** 警察から国民等に情報を届ける「狭義の広報活動」の方法には、直接広報活動と間接広報活動の2つがあるところ、直接広報活動は警察自ら行うものであり、間接広報活動は報道機関による報道等を介して行うものである。

**問6 正解③** 加害者の行為が刑罰法令に抵触する場合は、被害者に被害の届出の意思がないときであっても、過去の事例から被害者のみならず親族等にまで生命の危険が及び得ることを十分説明した上で、必要に応じて被害者を説得するなど、被害の届出を働き掛ける。

**問7 正解④** 警察用自動車による警らにおいては、心にゆとりを持ち、優先意識を払拭した上で、自己の運転技能を過信することなく、正しい乗車姿勢で模範的な安全運転を行う。

**問8 正解①** 裁判員裁判対象事件は、取調べの録音・録画の対象事件である。取調べの録音・録画制度は、裁判員裁判対象事件と検察官の独自捜査事件について、逮捕・勾留されている被疑者の取調べ又は弁解録取を行う際に、原則として、取調べの全過程を録音・録画しなければならないという制度である。

**問9 正解②** 車両等が継続的に停止していれば、原則として駐車に当たる。駐車とは、車両等が継続的に停止（特定自動運行中の停止を除く。）していること、②運転者が車両等を離れていて直ちに運転できないことのいずれか一方を満たす車両等の停止状態であり、両方を満たす必要はないからである。

**問10 正解⑤** 一朝一夕とは、わずかな日時のことである。例えば、「交通安全の意識、行動を一朝一夕に身につけることは困難である。」などと使う。